



長野県民生児童委員だより

Vol. **120**

2015
Spring

平成27年4月1日

発行人 長野県民生委員児童委員
協議会連合会
会長 伊藤 篤志

編集人 編集委員会
委員長 熊井 文弘

〒380-0928 長野市若里7丁目1番7号
(長野県社会福祉協議会内)

緊急特集 長野県神城断層地震

白馬村で民生児童委員はどう動いたか

Contents

◆緊急特集

長野県神城断層地震

白馬村で民生児童委員はどう動いたか 2~5

◆民児協訪問

須坂市豊洲地区民生児童委員協議会旭ヶ丘地区 6

箕輪町民生児童委員協議会 7

◆全国一斉 民生委員・児童委員の日のご案内 8

緊急特集 長野県神城断層地震

白馬村で民生児童委員はどう動いたか

昨年11月22日長野県神城断層地震が起き、特に白馬村、小谷村、小川村、信濃町を中心とした広い地域で大きな被害がありました。心よりお見舞い申し上げます。

さて、つなぐ編集部では熊井編集長が、白馬村民生児童委員協議会の2月定例会を訪ねました。会長の江津繁伸さんをはじめ、最も被害の大きかった地域の担当委員に話をうかがいました。定例会での発表を要約してご紹介します。



豪音と共に身動きができない状況

今回、白馬村の真ん中を南北に通る国道148号線を挟んで、東西で被害が大きく分かれました。特に被害が大きかったのは東側の堀之内、三日市場などです。西側で堀之内地区から1kmの飯田地区に住む江津会長によると、22日の夜10時8分、「豪音と共に南北に横揺れが来た。座ったまま、全く動くことはできず、ましてや外へ飛び出すことなど考えられなかった。食器棚も冷蔵庫も全部ドアが空いた。ガラスは割れて飛び散った」と地震の凄まじさを話します。「電気は一旦消えたが、1、2分程度でついた。パジャマの上に防寒着を来て、外へ出て区長らと連絡をした」。一番被害の大きかった堀之内までは江津会長宅からたった1kmだったにもかかわらず、テレビの報道を見るまでは、被害の大きさがわからなかったといいます。翌朝早くから担当地区内を区長らと連携して見回りました。白馬村全体の被害状況がわかってきたのはそれから数日後だったといいます。



▲当時を語る江津会長(右)熊井編集長(左)

堀之内、三日市場地区ではどう動いたか

最も被害の大きかった堀之内と三日市場地区の担当者、篠崎茂樹さんは、三日市場で妻と両親と4人暮らし。築100年の古い家に住んでいます。現在は、屋根が傾き、土台が沈み、大規模半壊の危険住宅となっており、土蔵は全壊で解体予定だといいます。

篠崎さんによると2月4日現在で、両地区で121戸中、全壊が39戸、大規模半壊が9戸、半壊が16戸、一部損壊が54戸で、両地区はほぼ全世帯が被害に遭いました。内、60戸は現在仮説住宅及び、知人親戚宅へ避難しました。75才以上の独居老人は13名、60から75才は5名、また65才以上で2人暮らしが15戸と、高齢化の進んだ地域です。また、これらの地域は昔からの民家が多い地域で、ホテルや旅館はほとんどありません。

地震直後篠崎さんは、余震がおさまるのを待って、家や部屋の状況を確認し、高齢の両親はひとまず家で待機させました。地域全体が停電と断水でした。三日市場地区の隣組長、区長らと話をし、手分けをして近所を見回りました。特に灯油タンクが倒れていないかを見て回り、ガスの元栓、ブレーカーなど、一軒一軒に声かけをしていきました。一人暮らしのお年寄り、近所の人に救出された人もいましたし、救出に1時間以上かかった人もいました。また入浴中で頭を打ったり、ぎっくり腰になったり、ガラスで顔を切った人などもいて、病院へ搬送されました。堀之内地区へは道が寸断されていたといいます。堀之内では家の倒壊が激しかったため、地区の役員が連携し、全員が避難所へ避難させていました。



不幸中の幸いは、翌23、24が土日だったため、親戚などの外部の人たちがそれぞれ手伝いに来てくれたことだといえます。24日お昼には避難所の公民館で炊き出しを始めました。夜は配食したりなど、地域の役員と交代でお弁当の配布などを手伝いました。

23日夕方に、ようやく電気が復旧し、24日の朝からテレビを見て情報を得ることができるようになりました。しかし水道復旧は、三日市場が11月30日、堀之内においては12月10日でした。配食は12月11日まで続けました。

ようやく、12月29、30日には仮設住宅に入る住民の手伝いをしました。その後は仮設住宅の交流会などを手伝い、見守り活動をしてきました。

「白馬の奇跡」の要因は 地区役員との連携

「これだけの被害がありながら、死者が出なかったという『白馬の奇跡』とも言われる要因はなにか」と、熊井編集長が篠崎さんに聞きました。

「実は震災の5ヶ月前の6月に、社会福祉協議会の指導により防災マップを作ったのです」と篠崎さん。区長や隣組長、民生児童委員らが地域をくまなく色分けし、家庭状況を把握する作業をしました。地区の役



▲篠崎さん
(堀之内・三日市場担当)

員はその経験で、自分たちだけでなく、近所の誰が助けに行かれるというところまで把握していました。また、でき上がったマップ自体が役に立ったのは消防の人たちでした。安否確認をしまわる際に役立つたといえます。



▲2月4日、白馬村民児協定例会。21名の民生児童委員のみなさん。

道路の亀裂で寸断される地域には 親戚が

次に被害の大きかった、大出・嶺方・蕨平担当の松沢幸一さんによると、担当地域の面積が大きく、地震の後はずっと自分の住んでいる地域を回りました。道が寸断され孤立したところもあり、24日に道があいたといえます。特に嶺方地区の茅葺き屋根の家は被害がひどく、住民は車中で過ごしたそうです。松沢さんがようやく全体を回ることができた時には、ほとんどが親戚や知人を頼って他の地域に避難していました。大出

(次ページに続く)



▲松沢さん
(大手・嶺方・蕨平担当)

地区も3軒に大きな被害がありました。結局25日までかかってみんなと話ができたそうです。

また、塩島・通・立の間・野平・青鬼担当の塩島昭次さんは、白馬駅東側の塩島地区ではJRの電柱が多いので、倒れてくると危ないため、消防団の若者と一緒に声がけて近くの広い駐車場へ全員を避難させて一晩過ごしたそうです。塩島地区は区長や総代と一緒に防災マップを作ったばかりだったため、その時相談した通りに動いたため、対応はスムーズだったといえます。山岳道路沿いに4地区があり、道路に亀裂ができて、回ることはできませんでした。結局3日後によりやく行きましたが、お墓の土台が道路に倒れ込んでいたり、道路のヒビがひどかったりしたそうです。高齢者世帯には親戚などが手伝いに来て、みな無事で避難もしていたといえます。

地震の3日後には、21人の民生児童委員から委員としての不安の声が会長に届けられました。そこで副会長と相談し、電話などで相談に乗りました。ちょうどそのころ、多目的研修集会施設にボランティアセンターが立ち上がりました。いつも民生児童委員が定例会を行っている建物です。センター立ち上げのお手伝いはもちろん、できるだけ会長始め、民生児童委員も顔を出して、ニーズを報告連絡、把握したり、物資の仕分け作業などを手伝いました。その後雪が降るまで

の間、約2〜3週間は続きました。各地区の避難所などでは、最終的に、仮設住宅に入るまで、区長や地区役員のみなを民生児童委員がサポートする形で支援は続きました。村外への避難者も含め、担当委員は要支援者については安否や状況を掌握できたと言います。

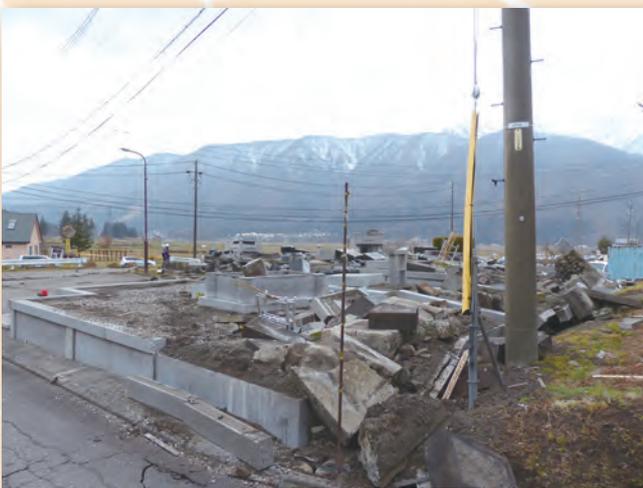


▲塩島さん
(塩島・通・立の間・野平・青鬼担当)

復興は、数メートルの雪が溶けた時が勝負

今冬は大雪でした。取材した2月には地震で半壊や全壊になっている家の上に、数メートルの雪が積もっている状況でした。危険なため雪下ろしできず、さらに倒壊が進んでいる家もありました。また、高齢者は地震のショックが大きく、長引く避難生活と慣れない仮設住宅での生活で、疲労が増している人も多いといえます。「できれば同じ場所に家を建てたい」と希望する人もいるそうですが、雪が溶けないと、地域全体の復興が進まないというのが現状です。

また、白馬村は世界的なスキーリゾートのメッカであり、長野県全体の観光産業の主要エリアです。今回、スキー場周辺に被害が少ないのに、インターネットや報道を通じた風評で宿泊のキャンセルも出ています。白馬村全体の民生児童委員は21名、そのなかにも旅館



▲堀之内地区内の墓地





▲堀之内地区内の被災家屋

や民宿経営者も多く、震災後に間もなくスキースーツが来たため、民生児童委員の役割との両立は大変だったに違いありません。

防災マップ作りが被害を最小限に

今回の経験で良かった点として、「防災マップづくりが役立ったこと」が上げられました。マップ自体というより、それを作る作業を区長や隣組長などのキーパーソン同士で行ったことです。作業の中で上がった情報が頭にインプットされたことが、被害を最小限にとどめることができた要因だと、委員のみなさんが口々に言っていました。「ぜひ、毎年このマップ作りをすべきたとつくづく感じた」と話したのは被害の大きかった地区の塩島さんです。

今回の取材は震災から3ヶ月後に行いました。春がきて住民が今後の生活をどうするか、課題が見えてき村外への避難者もいたりします。また復旧のための保険や保証など、高齢者にとっては手続きの負担もあります。行政や地域の役員らと連携して民生児童委員もどこまで支援したらいいのか、予想がつかない状況の中で、定例会では大雪対策や、子供たちの見守りについてなどが話し合われていました。

※大変な状況の中で、取材させていただき、白馬村民生児童委員のみなさん、及び白馬村担当各所の皆さんにお礼とお見舞いを申し上げます。

長野県神城断層地震 白馬村の被害地区



訪問



記者が地区民児協におじゃまし、会長や委員とコミュニケーションを図って、第三者の目でレポートしていく「訪問」コーナーです。

民児協
だより



須坂市豊洲地区民生児童委員協議会旭ヶ丘地区

男性の住民も積極参加する「コミュニティが地域を住みやすくする」

今回は須坂市の旭ヶ丘地区を特別取材しました。4つの地域からなっており、特に約500戸の北旭ヶ丘では民生児童委員が立ち上げたボランティアグループ「友愛会」や、「青壮年会」によって、民生児童委員活動にも好影響を与えている事例です。



▲青壮年会の会員の男性たちが窓磨きのボランティアに大活躍

豊洲地区副会長で旭ヶ丘地区会長の和久井さんは「旭ヶ丘地区全体は、広大なリンゴ畑がひろがる見晴らしのいい地域。昭和30年代に工業団地と併設し、宅地造成された分譲地。県営や市営住宅もあり、今はすっかり高齢化が進ん

でいる。一人暮らし世帯を一人で3軒担当している人も多い」と説明します。

しかし、そんな状況の中で「とにかく住んでいて楽しい」と話すのは、北旭ヶ丘の民生児童委員、永田袈裟藏さん、東海林文子さん、山崎美代子さんの3人。現在須坂市民児協会長の永田さんが、平成4年、委員になる前に発起人の一人になり、これからは「コミュニティづくりが大事と考え「青壮年会」を立ち上げ、最初は飲み会を中心に活動をスタート。現在では、マレットゴルフや男の料理など、趣味のサークル活動はもちろん、お花見、盆踊り、餅つき大会、施設の訪問などなど、育成会や自治会、社協など連携して、月1回以上のペースで地域の行事を引っ張っています。さらに平成12年にお弁当配布をきっかけに民生児童委員が立ち上げた「友愛会」の存在も大きいといえます。現在会員は民生児童委員のOBも含め22名。年3回、一人暮らしのお年寄りや地域の人に声をかけて食事を開催し約50人が参加しています。「ボランティアも参加者もとにかく一緒に楽しむこと」と話すのは永

田さん。立ち上げ当時は反対の声もありましたが、今では地域の楽しい行事の一つとして定着しています。行事やサークル活動の中心となっている「旭ヶ丘ふれあいプラザ」の利用者は年間2万人と市内でダントツです。



▲左から東海林さん、永田さん、山崎さん、和久井さん

「一人暮らしのお年寄りを訪問する際には、様々な行事にお誘いできるのもいい」と山崎さん。「参加したおばあちゃんが初めて笑った姿を見て嬉しかった」と東海林さん。委員はこうした地域の活動が確実にお年寄りの見守りに役立っていることを実感しています。「私たちもいずれば支援される側となる。こうした活動が続けば将来も安心して暮らせる」。将来の地域社会を明るくするヒントがここにあります。

箕輪町民生児童委員協議会



▲拡大役員(正副会長はじめ各部会の正副部長、6地区協議会会長、会計、監事)の皆さん。前列中央が小林会長。

59人が一堂に介する定例会は、弱者に寄りそう視野を広める場

箕輪町は県のほぼ中央に位置する人口約2万5千人の町。南アルプスと中央アルプスに抱かれた変化に富んだ自然環境、発達した交通網、先進開発型企業も多いのが特徴の「田園工業都市」です。移住者が多く、高齢化率は県下市町村の中でも有数の低さです。

民生委員・主任児童委員は総勢59人。全員が集まる定例会は、会場いっぱいの人で熱気にあふれ、大所帯だけに、会議時間も3時間近くに及びます。

小林弘毅会長は、民生委員3期

目。今期から会長を務めています。前会長時代から引き継いでいる方針は、定例会で幅広い分野について学び考え、見識を高めること。「活動を形式的にしないためには、弱者の立場に立つて寄りそうことが大切。そのためには広い視野をもたなければ」と小林会長。このため会長は、時宜にあつたテーマについてレジュメを用意した上で20分ほどの問題提起を行い、それについて全員が話し合います。時事関係も積極的に取り上げ、前会長は、地震のメカニズムについて説いたこともありました。

地区役員の改選が近づいた2月は、小林会長が自らの地区の組長・山林・道人足・山人足などの役員について発表後、委員も実情を報告しました。ゴミの問題、住民の高齢化など、たぐさんの意見が役員を引き受けられないの理由に常会から抜きたい高齢者もいる現状が分かり「弱者が排除されるような地域社会であってはいけない。どういう仕組みにしていけばかを考えるためにも、問題点を把握することが必要」と、小林

会長。今はまだ問題に直面していない地区でも、将来起きることなので、準備しておくべきと考えています。

このような話し合いに続き、「高齢者福祉部会」「障がい者福祉部会」「母子児童福祉部会」という3つの部会からの報告があり、最後は部会ごとの話し合いがあります。日ごろの活動も担当地区内に留まらず、福祉関係のイベントには出し物を工夫して参加するなど多彩。研修旅行や、折をみては親睦を深める機会をもち「楽しく活動を」と呼びかけている小林会長ですが、一期だけで辞めてしまう委員が増えているのが課題のことです。



▲総勢59人が集まる定例会で見識を高める。



表紙写真紹介

上田市 瀧水寺の境内の桜

撮影

豊殿地区民生委員児童委員協議会

会長 樋村 守彦さん

上田市殿城(赤坂地区)の大慧山 瀧水寺の境内の桜で、毎朝の散歩コースの途中にあり、木は小さいですが一番綺麗に咲いたところを撮影しました。ただ、早朝のため陽が当たらないので青っぽくなってしまったのが残念です。今年は、陽の当たったところ撮りたいと思います。

profile

写真が好きで、風景、花、昆虫、露、霜模様等を被写体に撮って自己満足にふけています。仲間と、撮影旅行に出かけたり親交を図っています。ただ、民生児童委員になり、写真を撮る機会が減ってしまい寂しい思いです。



5月12日は民生委員・児童委員の日です。
期間中にぜひ、活動を周知するための活動に取り組みましょう!

※民生委員・児童委員の日活動強化週間実施要領参照

「広げよう地域に根ざした思いやり」行動宣言のもとに、全国23万人の民生委員・児童委員がさまざまなPR活動などを展開することで、地域住民や関係機関、団体などに理解を図り、委員活動の充実につなげましょう。

取り組みの方法事例

- ・民児協全体で取り組めるPR活動を考えましょう。
- ・行政や社協などの広報誌に取り上げてもらうよう働きかけましょう。
- ・地域の現状に即した重点方針のキャッチフレーズを自分たちで考えましょう。
- ・日々の民生委員・児童委員の活動をこの期間に重点的に行うのもいいでしょう。

(例:支援者や担当地域への一斉訪問、防災マップの見直し、福祉施設・学校への訪問、防災マップの見直し、学習会の開催、心配事相談会の実施など)

民生委員・児童委員の日とは・・・

大正6年(1917年)5月12日に岡山県済世顧問制度設置規程が交付された日に由来して、全国民生委員児童委員協議会が昭和52年に「民生委員・児童委員の日」と決めました。

上田市民生児童委員協議会では毎年5月12日に、大正7年に「方面委員規程」を築いたとされる上田出身、小河滋次郎(おがわ しげじろう)博士の上田城址公園内にある胸像の清掃活動をしています。上田市の方面委員(現在の民生児童委員)代表者である横内浄音氏が、方面委員制度創設の小河博士の偉業を称えようと、全国の方面委員から1円の寄附を募り、昭和5年(諸説あり)に上田公園に建立されたとされています。(現在の胸像は、昭和25年に再度铸造したもの)



◀上田城址公園の一角に

▶ 彫像の裏面に方面委員についての記載が



2月上旬、今号の特集「神城断層地震」の取材で白馬村民児協を訪問しました。被害の大きかった地区の委員に被災当時の話を伺ったあと、定例会を傍聴させていただきました。

会議では、事務連絡につづいて出席委員がそれぞれ活動の中で生じた心配事などを提示し、話し合いが行われました。「除雪をめぐる近所同士のトラブルにどの程度介入したらよいのか」「除雪によってできた道路沿いの雪山から児童が転落、危険」「小学校の屋根の雪下ろしの当番は」など時節柄、大半が雪に関わる事例でした。この後、江津会長の助言や行政の担当者の説明を含め、問題についての対策が協議されました。

定例会でのやりとりを聞きながら改めて感じたのは、この地に根付いている濃密な地域社会の連帯でした。そして、民生児童委員はそこに住む人々の暮らしに寄り添いながら活動しているのだと実感しました。

帰途、大きな被害を受けた堀之内地区に立ち寄りました。夕闇の中、雪に埋もれるように震災の傷跡が点在していました。一日も早い復興を願ってやみません。

(熊井文弘)



編集委員 / 熊井 文弘・草深 邦子・古川 友枝・依田 宗夫